

## LPガスCP速報(2022年7月積)

### 1. 7月積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **725** 円 (前月比-25円)

ブタン **725** 円 (前月比-25円)

#### ① LPガススポット市況等

原油市況が乱高下するなか、LPガス市場をみると、不需要期入りでプロパン需要は減少、ブタンは石化、ガソリンブレンド需要が減退、天然ガス代替需要が下支えも市況は軟化した。中東市場は、中国のコロナ感染再拡大によるロックダウンで、PDH需要も含め低迷、ブタンもアジア市場の需要が停滞するなか、カタール、アブダビ、クウェート等産ガス国の在庫は高く、スポット販売を実施、需給緩和感が強く、市況は軟化した。極東CFRは、プロパン、ブタンともに月初の800円超から第4週にはプロパン、ブタンともに760円まで下げている。

米国市場をみると、不需要期に入ったが、輸出は堅調、高水準が続いている。全米プロパン在庫は15週連続で増加も積み上げは捗らず、5年平均レンジの下方(グラフ②)。モンベルビュプロパンスポット価格は、在庫増を受けて軟化、第1週の640円台後半から、第3週以降は615~630円に下げた。MB月間平均は前月比5円続落の635円どころ(グラフ①)。

フレート市況は、船舶需給の緩和を受けて軟化した。米国積みと極東着価格差の拡大、縮小で市況が揺れた。下旬には中東産ガス国のアクセプタンスが出揃い、インドの引き合いが強まり一時80円後半まで上げたが、傭船需要減退で市況は弱含んだ。

ナフサは原油価格に連動し上げ下げ、上旬は880~850円のレンジで推移、中旬に800円を割り込むと800円を挟んだ展開となり、月間平均は前月比77円続落の820円どころ。ブタン市況の下押し要因となった。

バンカーオイルをみると、シンガポールIFO380は月間平均で前月比77円下げの617円となった一方、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は同166円上げの1,347円どころ、留出油の世界的低水準在庫によりガスオイルの価格上昇が著しく両油種の格差は730円に拡大、LSMGOはC重油の倍以上の価格となった。

7月CPは前年同月比プロパン、ブタン105円それぞれ上昇。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算(下記参照)では、前月に比べプロパン、ブタン3ポイントそれぞれ低下、前年同月比ではプロパン、ブタンともに28ポイント低い。2019年9月以来の低水準。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート	95	84	70	76	81
CP先物指標:P	745	730	710	710	724
CP先物指標:B	745	730	710	710	724

#### ② 原油市況等

6月の原油市況をみると、依然ボラティリティが高い状況が続いている(WTI期近終値:安値23日104.27円、高値8日122.11円)。軟化要因となったのが、米金融当局の大幅な金利引き上げに伴う需要減退懸念。各国中央銀行も急激に進むインフレ対策として金融引き締め動き世界的な景気後退懸念が強まった。また、中国のコロナ感染再拡大によりロックダウン繰り返されたことも尾を引いた。一方、ファンダメンタルズは需給逼迫。ロシアへの制裁強化や、産油国の政情不安(リビア・エクアドル)による供給停止不安、OPECプラスの増産前倒しも実効性は疑問符が付き、余裕があるとみられていたサウジ、UAEも増産余力は乏しいとの見方が出てきた。スタグフレーション懸念も現実味を帯び、株価の弱気相場入りでリスク回避の動きが、原油先物市場でもポジション縮小の形で顕われてきた。ロシアのウクライナ侵略戦争は終息が見通せず、世界を熱波が襲うなか、各国は炭素資源の確保に右往左往、SDGs、ESG投資も胡散臭く、資源高と地球温暖化は止められそうもない。

○6月積みアラビアン・ライト(6月1~29日までの想定)は117.90円(前月比+0.88円)

熱量等価AL100% プロパン966.66円/トン ブタン953.40円/トン

AL比 プロパン75.00% ブタン76.04%

\*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

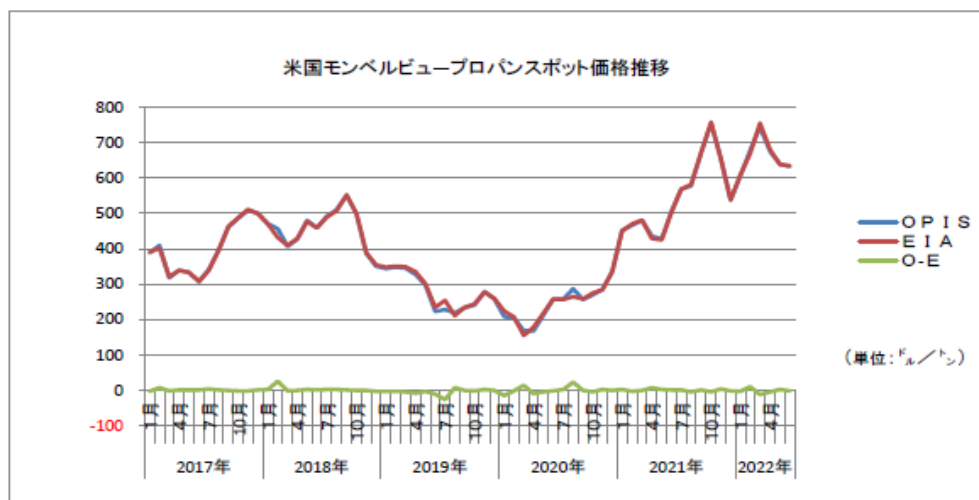
## 2. 2022年7月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

適用為替	T T S	P円建CFR	B円建CFR	P前月比	B前月比
①20日締め	132.08	108,700	107,810	-4,500	-7,400
②末日締め	134.93	110,200	109,600	-2,100	-5,000

\* T T S平均について、①が5月21日～6月20日、②6月1～30日まで。①、②いずれも前月・当月CP50%案分。MB合成の比率は①、②ともにCP70%、MB30%で算定。①、②ともに中東・北米フレートを含むCFRコストを表示。

なお、上記MBは5月27日までの価格を基にE I Nで試算（640<sup>ドル</sup>/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はW e bサイトを参照。

### ①米国プロパンスポット価格推移



### ②全米石油（原油・ガソリン・留出油・プロパン）在庫推移

